

ドイツ政権に「緑」は戻ってくるのか

◆9月にドイツは総選挙、首相候補出そろう





ドイツでは、4年に1度連邦議会選挙（総選挙）が行われる。これまで、多数の議員が当選した政党から首相が選出されてきた。16年間首相の座についていたメルケル首相が引退を表明していることもあり、2021年9月に予定されている総選挙は、その後継者が誰になるのかという点からも注目を集めている。

ドイツでは、各党が首相候補を掲げて議会選挙に臨むが、4月までに主要政党の候補者が出そろった。今回、特に注目を集めているのが、野党で環境重視を掲げる緑の党だ。同党は、党首にあたる代表を男女2名が共同で務めるシステムを取っており、今回18年からロベルト・ハーベック氏と共同代表を務めている女性のアンナレーナ・ベアボック氏が候補者にあげられた。

他党の候補者を見ると、現政権与党のキリスト教民主同盟（CDU）/キリスト教社会同盟（CSU）は、CDU党首のアルミン・ラシェット氏、社会民主党（SPD）が、副首相兼財務相を務めるオラフ・ショルツ氏で、共に60歳を超える男性である。これに対し、緑の党のベアボック氏は2人の子供を持つ40歳の女性で、対立候補としての違いが鮮明になっている。野党の自由民主党（FDP）の候補者クリスチャン・リンドナーも40代だが、男性である。

ドイツの政党には、CDU/CSUが黒、SPDが赤、FDPが黄色などのシンボル色があるが、今回の選挙戦では緑の党の人气が上昇中で、「緑」の旋風が吹きそうだ。

ドイツの主要政党と首相候補者

政党名	色	首相候補	党及び候補者の特徴
キリスト教民主同盟（CDU）/*キリスト教社会同盟（CSU） *バイエルン州のみの党		アルミン・ラシェット	NRW州首相。CDUの候補者。人気が高かったCSUのゾーダ氏を抑えて候補に。メルケル（CDU）路線の後継者。
社会民主党（SPD）		オラフ・ショルツ	政権与党で、副首相兼財務相。
緑の党（Grüne）		アンナレーナ・ベアボック	野党。党の共同代表の1人。女性、40歳、子供2人。
自由民主党（FDP）		クリスチャン・リンドナー	党首。現在野党だが、同党は与党を担った経験もある。

◆現政権への不満から、緑の党の支持が拡大、CDUとトップ争いの様相

ドイツでは、新型コロナ対策が当初は上手くいっていたが、この数ヶ月は状況が悪化し、感染者数が日に2万人を超える日もあった。さらに、ワクチンの開発に成功したビオンテック（日本での販売権はファイザー）の本拠地で、政府も開発支援をしてきたにも関わらず、国内でのワクチン配布が遅れるなど、政権への国民の不満が増大していった。その反動として野党への期待が高まっている。

ドイツは欧州でも環境意識が高い国の1つだ。環境運動「Fridays for Future」のデモにも多くの若者たちが参加した。また、若者や環境活動家らは、「19年施行の気候保護法では31年以降の温室効果ガス排出量削減目標を定めていないのは不十分」として、連邦憲法裁判所に「将来的に基本的人権が侵害される」と主張し提訴したが、21年4月末に裁判所は一部違憲判決を下し、22年末までの目標設定を求めた。政府はこれを受け目標明示に動くこととなった。

若年層を中心とする高い環境意識と現政権への失望から、環境重視の緑の党への期待が高まり、世論調査ではCDU/CSUに次ぐ支持率となってきた。さらにベアボック氏が候補と報じられると、一部の世論調査でトップに躍り出た。女性を売りにした得票マシンと揶揄される向きもあるが、共同代表ハーベック氏が理想論を語るカリスマに対して、ベアボック氏は平易な言葉で語る地に足の着いた勉強家という評価もある。欠点は、国政での閣僚や州首相の経験に欠けることだ。

◆緑の党は、過去1度だけ国政政権を経験、今年は国政復帰が現実味

緑の党は州レベルでは半数以上の州で連立政権に参画しているが、国政政権復帰も現実味を帯びてきた。1998年のSPDとの赤緑連立政権以来、23年ぶりとなる。どの党も単独での政権獲得が難しく、緑の党を軸に、連立の組み合わせが取りざたされている。CDU/CSUとの黒緑政権、SPDとFDPとの赤黄緑（信号機）政権などだ。

緑の党は、環境団体の系譜を持つが、同時に人権団体でもある。90年に東ドイツの民主化に関わった市民グループが「同盟90」を結成、平和や人権を掲げていた。そして、当時の選挙対策もあり、93年に緑の党と統合した。緑の党が男女の共同代表制をとっているのも、人権やジェンダー平等に力を入れているからだ。ベアボック氏の首相候補選出も党是の体現と言われている。緑の党が政権に戻れば、今以上にドイツは環境と人権に力を入れていきそうだ。 【赤山英子】